

起業家支援財団 事務局通信 NO.9



11月6日から9日にかけて学生起業塾の一環で中国研修を実施。写真は松井理事長が名誉教授を務める、延辺大学（吉林省延吉）で講演の様子。延辺大学からは約150名の学生が聴講しました。財団奨学生とOBを含む14名が参加し、延辺の他、上海、青島を訪問しました。

発行日 平成23年1月20日（木）
 発行 公益財団法人起業家支援財団
 事務局 〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80
 TEL 045-263-9222 FAX 045-263-9220
 www.shienzaidan.or.jp info@shienzaidan.or.jp
 発行責任者 小林孝雄 編集 羽田清

公益財団法人として1年目(9か月)が終了しましたが、昨年7月からスタートした内閣府からの受託事業(社会的企業育成支援事業コンソーシアム)も順調に進捗、iSB 公共未来塾は今月後半に開講予定の第3期から第6期まで、年内に計4回開講予定です。また今年は新規事業である関内インキュベーション事業(横浜市モデル事業)もスタートします。

平成22年度第4四半期の報告をいたします。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしく
 お願いいたします。
 (副理事長 小林孝雄)

■理事会並びに評議員会開催

平成22年度事業計画、収支予算の進捗状況の報告と平成23年度事業計画、収支予算案承認を主な議題として平成22年12月9日、平成22年度第3回の臨時理事会と臨時評議員会を開催しました。その他、内閣府からの受託事業の進捗状況、関内インキュベーション施設の企画運営事業の概要と今後の予定についても報告しました。

席上、理事長より、来年には設立5周年を迎えるにあたってこれまでのご協力とご支援に対し謝意が表明され、財団としての事業も拡大しつつあるので引き続きご支援頂きたいとのご挨拶がありました。

■社会的企業育成支援事業コンソーシアム 進捗報告

昨年7月24日に第1期がスタートしたiSB(注)公共未来塾は、10月23日～12月11日第2期を開催、45名の方が参加しました。

本事業は2年にわたるプロジェクトで、第6期まで継続して行います。(最終第6期は今年の12月に終了予定です。)

また本事業のもう一つの柱である社会起業プランコンペティションの第1回目(応募総数67件)は、9月26日に最終審査(公開プレゼンテーション)を実施し、『児童養護施設退所者のための就労支援事業』『ネット世界の教習所』『MaGaRi(マガリ)―間借り物件紹介メディア』など9件が起業支援金対象案件として選定しました。今後の展開にご注目願います。(注) institute of Social Business



第1回社会起業プランコンテストの入賞者

iSB 公共未来塾の詳細はコチラをご覧ください。
<http://www.isb-yokohama.org/>

■第3回ベンチャー起業家と経営者をつなぐフォーラムの開催

10月14日、ホテルキャメロットジャパンにて行い、60名超の方に参加いただきました。フォーラム終了後には交流会を催し、盛会裡に終了しました。

テーマは「神奈川のモノづくり～中小企業の勝ち残りの方策を探る」とし、櫻井享氏〔財団法人川崎市産業振興財団産業支援部新産業振興課長〕に基調講演していただきました。

パネルディスカッションでは、櫻井氏のコーディネートのもと、鴨志田英樹氏〔株式会社ロボット科学教育代表取締役社長〕、今野辰裕氏〔今野工業代表取締役社長・ものづくり共和国〕、吉田邦夫氏〔AJI株式会社代表取締役社長〕に熱く議論いただきました。神奈川県商工労働部産業技術課長の村井省二市に県のモノづくり支援政策について情報提供いただきました。このテーマの重要性を再認識する機会となりました。

■ 経営道場 2010 の実施報告

平成 22 年 9 月 15 日より、『経営道場 2010—起業家精神で経営を革新する』がスタートしました。10 名の受講生に参加いただき、全 13 回の日程で実施しています。

「経営者とは何かを考える」では、当財団評議員の呉雅俊氏〔株式会社 TSUNAMI ネットワークパートナーズ代表取締役〕、神山治貴氏〔株式会社マクニカ取締役会長〕からご講演をいただきました。

2 月には、藤川雍中氏〔エバラ食品工業株式会社代表取締役社長〕にご講演いただく予定です。

■ 学生起業塾の実施報告

第 3 期奨学生を対象にした学生起業塾を下記の通り 3 回開催しました。各回、ゲスト講師からの講話に加え、奨学生によるビジネスプラン等のプレゼンテーションと意見交換を行っています。また、学生起業塾の一環で中国研修を実施しました（おもて面写真をご参照）。

<p>◆ 第 20 回</p> <p>9 月 29 日(水)</p> <p>神山治貴氏 〔株式会社マクニカ 取締役会長〕</p> <p>※経営道場と合同開催</p>	<p>「私の経営哲学～人間尊重の経営と魅力ある企業づくり」の演題のもと、同社事業を通じて得られた教訓や、これまでに育まれた企業文化と企業経営の関係等が紹介された。事業経営を通じて様々な教訓や考えを披露したうえで、最後に、経営者を目指す者にとって大切なことは、「肝は戦略と社員」であるということであり、会社は人に始まり人に終わると述べられた。</p>	
<p>◆ 第 21 回</p> <p>12 月 15 日(水)</p> <p>森川徹治氏 〔株式会社ディーバ 代表取締役社長〕</p>	<p>「ただいま修行中！ 私の経営修行 ～誠意と熱意と実力と～」との演題のもと、会社員を経て同社を創業に至る経緯を中心に経営についての考えが披露された。人の成長を促すのは人との繋がりであり、繋がりを生み出すのは、ロジックではなく、“感度”であると述べられた。“感度”を高めていけば、必ず出会いはあり、飛躍のチャンスは訪れる。そして、“感度”を高めるためには、日頃が大切になるとのアドバイスがなされた。</p>	
<p>◆ 第 22 回</p> <p>12 月 18 日 (土)</p> <p>橘川直泰氏 〔農家経営(橘川果樹野菜園)〕</p>	<p>この日は、従来の学生起業塾とは趣向を変え、二宮町の農家、橘川直泰氏の農場を訪問し、みかん畑の開墾等の農作業を行いながら、橘川氏より農家経営のお話を聞き、意見交換を行いました。新品種開発やリスク回避、既存の枠組みからの脱却等企業経営にも資する話を聞くことができました。</p> <p><橘川氏講話より> 農業をやる喜びは、お客さんに自分の作ったものを食べて喜んでもらえること。直売所等に行き直に消費者に自分の作った野菜等の説明をするようにしている。お客さんになじみのない野菜を作っているの、食べ方等まで含めて伝えて行くことが必要になる。多品種の栽培しているのは、農業は天候に左右されるのでリスク回避の目的もある。</p>	

事務局から

○今年の内閣府からの受託事業である地域社会雇用創造事業を中心に、新たに関内インキュベーション施設の企画・運営事業が加わり、昨年よりもさらに多忙な一年となりそうです。

○このような状況下、1 月から事務局の一員として森将隆が加わりました。森には前職（あきない総研）での経験を活かしつつ、主に iSB 公共未来塾の運営、関内インキュベーション施設の企画・運営を担当します。

○今年財団創設 5 周年目にあたることから、記念イベントを計画中です。皆様からの企画アイデアも大歓迎です。ご提案お待ちしております。
(羽田)